

第 4 回策定委員会の振り返り

NO	項 目	主要意見
1	公共交通の再整備について	○ 利便性の向上については個人差が大きい。バス交通は最大公約数のサービスとなる。ニーズが多様化しているなかで、利便性の向上は難しい。 ○ まちが縮小していくなかで、意識を変えていく必要がある。バスがないところで育ったので不便は感じていないし、歩いて行ける場所に行政の出張所や小児科があるなど、便利である。
2	ニュータウンの顔として商業施設の再整備	○ 安心して買い物できるまちに向けて、ニュータウンの中心部分の再開発を仕組みとしてあげて欲しい。 ○ ニュータウンの顔の再整備について、活性化に向けた仕組みとして委員会から提案できるとよい。住民や事業者を巻き込んでいく必要がある。駐車場を一体化してオープンカフェができるとよい。 ○ 郵便局へは横断歩道を渡る必要がある。10 年後ぐらいにはモールのように、安全でバリアフリーな空間を実現したい。
3	若い世代に向けた指針の打ち出し	○ 子育て世代は、現在に対して悲観よりも満足感の方が大きい。30 分で難波に行くことができ、金剛駅には特急も止まる。住んでいる人たちが生活を楽しんでいる様子を示せるとよい。 ○ 年々地価が下がっており、何らかの手を打つ必要がある。地域の価値が下がると、若い人たちは入ってこない。泉北ニュータウンに対して地の利が下がっている。近大病院に替わる新しい魅力を入れていく必要がある。 ○ まちの中心が再整備され、近大病院跡が変わることがイメージできれば、若い世代の転入につながる。
4	自分事になるような指針に	○ 読んだ人が今後のまちづくりに期待できるような指針、インセンティブがあり、それぞれの仕組みにつながるようにしたい。 ○ 泉北スタイル、奥河内の暮らしといった打ち出し方で、新しい世代にこれからの狭山ニュータウンの暮らしを伝えたい。まちの魅力を引き出しながら、新しい生活スタイルをつくっていききたい。
5	取組みを進めるためのプラットフォームづくり	○ 取組項目の内容や進め方について、5W1Hなどの検討が必要になる。共通のプラットフォームづくりなど、推進体制がもう少し見えてくるとよい。 ○ 指針を基にして協議会をつくり、事業者を巻き込みながら取組みを進めていきたい。取組主体を示すと、プラットフォームづくりが見えてくる。 ○ NPO などの活動が取り上げられておらず、現状の人のつながり、将来的なネットワークが見えていない。どんなネットワークをつくると豊かになるのかが示せるとよい。 ○ プラットフォームづくりの重要性を示したい。モデル的取組みを通じて学習して意識が高まることで、プラットフォーム構築につながる。